



人から人へ愛のプレゼント

やまぐち 移植医療通信

No.19

平成25年3月15日

山口市滝町1-1 (山口県地域医療推進室内) TEL083 (932) 0743 FAX083 (933) 2939
URL <http://www.y-ishoku.org>
E-mail bank2@crocus.ocn.ne.jp

発行者：公益財団法人やまぐち移植医療推進財団

ごあいさつ



公益財団法人やまぐち移植医療推進財団

理事長 濱本 史明

平素より、当財団の活動について格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

当財団は、平成5年11月に「財団法人やまぐち角膜・腎臓等複合バンク」として設立以来、山口県においてアイバンク事業及び移植医療の普及啓発活動に取り組んでまいりました。この間、アイバンク事業については、医療従事者の皆様、そしてライオンズクラブ会員の皆様の熱心な献眼普及啓発活動に支えられ、平成24年3月末までに累計で25,000人を超える方に角膜ドナー登録をいただき、実際に207名の方から角膜の提供を受け、約300件の移植を実現させることができました。多くの方が角膜移植を通じて光を取り戻されたことは、私どもも誇りとするところです。

また、平成9年の臓器移植法成立後は都道府県臓器移植コーディネーターを設置する団体として、山口県における移植医療の普及の担い手として活動を続けてまいりました。数多くの方々に移植医療への興味や関心を持っていただけただけでなく、医療機関の皆様の多大なるご協力の下、平成24年3月末までに6件の心停止下での腎提供をいただきました。これまでの当財団の活動に対する皆様の温かいご支援に対し、深甚なる感謝の念に堪えません。

さて、当財団は、国の公益法人制度改革に対応するため、平成23年度末に山口県から公益認定を受け、平成24年4月1日付で「公益財団法人」に移行しました。併せて、私どもの活動をより身近に感じていただけるよう、法人の名称を「やまぐち移植医療推進財団」に変更しました。公益財団法人となり、寄附金の税制面での優遇措置等の恩恵を受ける半面、事業の公益性や財政・組織運営について官公庁から厳しい監督を受けることとなりますが、新たな法人への移行に当たってご協力を賜った医療関係者、ライオンズクラブその他関係団体の皆様のご尽力に応えるべく、より効果的で中身の活動を展開していくため、職員一同気持ちを新たにに取り組んでいるところです。

当財団の存在意義は、臓器移植を待っておられるレシピエントの方々に、ドナーの方々の善意を届けることにあります。今後とも、その初心を忘れず、一人でも多くの方に臓器移植に対するご理解を広めるため、誠心誠意精進してまいりますので、皆様におかれましても当財団の活動にご参加とご協力を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

目が見える幸せ



山陽小野田市在住

米田 國雄 (角膜移植者)

私は左目の角膜内皮移植を2度受けました。

1度目の移植はウイルス感染で、1度上がった視力が下がりました。

右目は緑内障もあり視力が低いので、左目が頼りだった私はショックを受けました。

車の免許の更新も受けられないのかもしれない。と思っていた時、山口大学病院の山田先生から2度目の角膜移植のお話を頂き、平成23年6

月に角膜内皮移植手術を受けました。

現在は経過も良く、視力が1.0まで見えるようになり、車の免許の更新も出来ました。

これも、私に角膜を提供してくださった方、山口大学病院の山田先生を始め先生方、アイバンクの活動をされている方々のおかげだと感謝しています

ありがとうございました。

朝晩、家の前から見える関門橋を眺めながら、目が見える幸せ、ありがたさを感じています。

私のように角膜移植で目が見えるようになる人が増える事を心から願っています。



お知らせ

国の公益法人制度改革に対応するため、平成24年4月1日付で「公益財団法人」への移行と同時に、当公益法人の目的と事業を次の通りとしましたのでお知らせします。

また、毎年度の事業や会計報告、お知らせ等はホームページに掲載していますのでご覧下さい。

目的（定款第3条より）

この法人は、臓器の移植に関する法律（平成9年法律第104号）の趣旨にのっとり、山口県におけるアイバンク事業及び移植医療の普及推進に関する事業を行い、もって県民の健康及び福祉の向上に寄与することを目的とする。

事業（定款第4条より）

この法人は、前条の目的を達成するため、次の事業を行う。

- (1) 眼球提供者の募集及び登録管理に関する事業
- (2) 角膜及び胸膜のあっせんに関する事業
- (3) 移植医療に関する知識の普及啓発に関する事業
- (4) 医療機関における臓器移植に係る医療体制の整備に関する事業
- (5) 前4号のほか、この法人の目的を達成するために必要な事業

2 前項の事業は、山口県において行うものとする。

光となって



ドナー（角膜提供者）ご家族

國澤 康乃

（献腎移植者）

昨年、夫死去に際し、角膜の病気で移植を待っておられる患者さんへ夫の角膜を提供させていただきました。本日は、自分の病気の事を含め、夫の事、提供時の気持ちなどをお話しさせていただければと思います。

夫の死は、突然でした。私も日頃から多忙な夫の体調には気を配っていましたが、夫自身もおつき合い以外はお酒もたばこも吸わず、健康には気を付けてくれていました。前日は人間ドックの日でしたが、結果もよかったようで、夕飯時に妻の健康管理に感謝してくれ、詳しい結果は後日送付される事や、先生のアドバイスをいろいろ伝えてくれました。この数時間後、まさかこの世から夫が去る事など考えもしない、おだやかな夫婦の団欒でした。

翌朝、用事で電車を1本遅らせた夫は駅まで送る車の中で、「これから毎週土日の夕方は、一緒に散歩をしようよ」と言い、「今日は、暑くなるから草をとってはいけないよ」と忠告して、「ありがとう、行ってきます」と車を降りると元気に改札口の方へ歩いていきました。それが、私が見た元気な夫の最後の姿でした。その30分後、AEDを使い懸命の救命にもかかわらず、帰らぬ人となったのです。急性の心臓疾患でした。通勤中の事でした。56年の精一杯生きた一生でした。

夫は長年、観光、旅行業の仕事に心を尽くして励み、少ない余暇に写真や山歩きを楽しみ、最近では、野菜づくりにも興味をもち、朝もぎ野菜が朝食にのぼることを喜んでいました。勉強家でこまめな、たのもし夫でした。仕事関係やその他のグループでもすばらしい仲間恵まれて「ありがたいねえ」といろんな方にお世話になっている事にいつも感謝していました。徳山中央ライオンズクラブにも所属し、仕事の合間に社会奉仕活動に時々参加していました。人間ドックで心エコー

や24時間心電図測定も受けさせておけばよかったと思いましたが急性の場合、数分前まで何の徴候もないこともあり、異常を感じた時は動かず、いち早く119番通報、呼吸のない時は心臓マッサージやAEDなど救命処置をし、少しでも早く病院へ搬送することが大切との事でした。暑い日でした。カバンの中には1ℓの愛妻水が入ったままでした。

実は、私は慢性腎不全という病気をもっており、透析、その後移植という治療を受け、今日に至っています。H3年に尿が出なくなり、週3回1日4時間かけて血液透析治療で毒素がたまった血液をきれいにしていました。厳しい水分、塩分制限もありましたが家族や患者仲間と支えあい、励みあって頑張っていました。そんな中、透析病院のドクターから移植治療の話聞き、家族と相談し献腎移植希望登録をしたのです。移植の知らせがきたのは、H7年夏の事でした。急な知らせに動揺はありましたが、ドナーやご遺族の善意に心から感謝し、移植施設へ急ぎました。術後、私の右のお腹の中に移植されたドナーの腎臓が動きだし尿が出はじめ透析から離脱できた時の感動は、今も忘れる事ができません。あれから18年、ドナーからの健康の贈りものは今も私の大切な宝物です。昨年もドナーの命日（移植日）には夫と「ドナーさん、ありがとうございます。」と我が家の仏壇を通して伝えました。少しずつ機能は落ちてきましたが「もう1年、もう1日、一緒にいようね」と時々、お腹をさすって声をかけています。18年の間、大切な家族を5人看取る事になった私の使命を支えてくれました。

法律ができて日本でも脳死からの提供が可能になった時、夫婦で人の死や臓器提供について考えました。①脳死と植物状態は、まったく違う事②脳死判定って何？③脳死から提供できるもの、心臓停止後から提供できるものは？④提供しないという意味も表示しておくことができる事、などです。いろんな病気で移植治療でしか健康を取り戻せない患者さんがいる事を知りました。「自分が死んだ後、灰になる前に病気の方のお役にた

てるものがまだあるのなら全部あげても、ええよ」「人間愛あふれる灰よね」と話し病院や薬局、コンビニ、市町村役場などに置いてある臓器提供意思表示カードや免許証、健康保険証に、もしものとき、自分はどうしたいのかをもう一度考えお互いに記入しました。「でも、うんと長生きしようよ。二人そろって」と約束して。。。



「命よ（鼓動を）うって！がんばってきたのに、今死んではだめ！」きつと意識を取り戻してくれていると願ひ信じかけつけた徳山中央病院で、すでに夫は冷たくなっていました。「母さんのために元気でいてやらんにゃいけんのう」といつも言ってくれていたの、信じられず、心が凍結しました。安置室に横たわる夫の手を私の手で一生懸命温めました。しかし、返事も笑顔も返してくれません。「私が代わってあげたかった」と思いました。あまりの非常な運命に心を失いかけてました。しばらくして夫を見ると、いつもの穏やかな顔をしていました。はっとしました。臓器提供の事を思い出したのです。自分を落ち着かせ、勇気を出して、親族に夫が臓器提供の意思をもっている事や現時点で提供できる角膜提供について話しました。「角膜だけでも」と私達は突然の出来事で大きな悲嘆の渦の中にいましたが、最期に社会のためという夫の願いを「尊重しよう」と決断しました。そしてそれを救命センターのドクターに伝え、県庁内にある、やまぐち移植医療推進財団（旧やまぐち角膜腎臓等複合バンク）にも伝えました。

アイコーディネーターが到着するまで院内コーディネーターが来られ、イスや待機の部屋を用意してくださり、私達遺族をそばで気遣ってくださいましたので、心強く思いました。

摘出手術は徳山中央病院の眼科の先生で敬意を表して全力を尽くしてくださったそうです。とてもきれいな健康な角膜で二人の方の光となった事を後日聞き、嬉しく思いました。続く通夜、葬儀、その後も職場関係の方々、ライオンズの方々、やまぐち移植医療推進財団、そして夫と交流のあった多くの方々が遠くから近くから夫を悼んで真心

を寄せてくださいました。又夫の死にあたり沢山の方にお世話になり有難く、言葉では言い尽くせない感謝でした。

私の場合ですが、提供の決断に至った理由は、①夫婦で話し合って意思表示していた事 ②力をつくして救命医療をしていただいたと思えた事 ③夫の死に対して関わる人が丁寧に向き合い、寄り添ってくれていると感じた事 ④夫が望んでいるとあらためて思った事 ⑤提供に対して親族が賛成してくれた事、です。夫の命は私にとって、かけがえのない尊い大切なもの、その命の尽きる時、人生の幕が降りる時、最愛の人の最期の願いを胸をはって誇りに思い、叶えてあげるのも妻の役目なのではないかと思いました。

人は、一生のうち半分は、自分のために生き、もう半分は人のために生きている動物らしいです。誰かの健康回復の一筋の光となり、医学の発展のためにお役に立てた事を夫は、静かに喜んでいることでしょう。臓器提供は、命の大切さを知っている人が、人に最期にかけける究極の「おもいやり」です。「おもいやり」によって「命」が誰かに受け継がれ、つながってゆくというのは、素晴らしい事、尊い事と経験を通して思います。理解が広がっていく事を願っています。



夫は仕事で多忙な毎日を送りましたが、「母さんのおかげ」というのが口癖の優しい夫でした。妻の事が心配でオチオチ眠ってはおれず、今も私の傍をうろうろしているかも知れません。二人三脚で苦楽を共に歩んできましたので、私も思う方が今はがんばってゆけそうです。まだ、「母さん、ただいまー」という声が聞こえてきそうです。「おかえり、お父さん。ありがとう、大切にしてくれて。立派な一生だったね。すばらしかったよ。」

親族一同、夫の心の偉大さと優しさを感じながら前へ向かって歩む今日この頃です。

（アイバンクセミナー「つながる命 かがやく光」
講演会 体験発表より）

「脳死下腎摘出術手技講習会」の報告



下関市立済生会豊浦病院

院長 上領 頼啓

平成 21 年に臓器移植法が改正され、生前に本人の意思表示がなくても家族の同意があれば臓器を提供出来ることになり、本邦でも脳死臓器移植が増加して来ている。こうした背景から当山口県においても脳死ドナー情報が多く寄せられるようになり、脳死下での臓器摘出に対応する必要に迫られて来た。しかしながら当県の現状は脳死下での臓器摘出（腎摘出）の経験のある移植医は少なく、仮に経験していたとしてもその症例数は限られており、移植医にとって脳死下腎摘出術のトレーニングが喫緊の課題となって来た。そこで此の度県内の移植医を対象に豚による「脳死下腎摘出術手技講習会」を企画し、山口大学共同獣医学部動物医療センターの協力を得て昨年 11 月 11 日（日）に同学部動物医療センター手術室に於いて開催した。

当日は冷気を含んだ小雨の降る生憎の天候であったが、スタッフは午前 8 時に講習会場の山口大学共同獣医学部動物医療センターに集合し、動物センターの出入り口に受付用の机を並べた。受付には受講者に配布するために当日の工程表を用意した。9 時過ぎに 3 頭の豚を載せた大型トラックが島根県六日市から到着し、豚をセンター内の入院室に運び入れ鎮静剤を注射した。本講習会に参加した受講者は 9 名であった。受講者は受付を済ませた後講義室に集合し、動物医療センターセンター長田浦保穂先生及び主催者である臓器移植推進財団常務理事小野村昌子氏の挨拶の後、10 時から本講習会のインストラクターである国立病院機構米子医療センター副院長杉谷篤先生による脳死下腹部臓器摘出術の講義を受講し、受講者を



用意した豚の数に合わせて夫々 3 名の 3 班に分けした。その後手術室に移動し、手術室の責任者である動物医療センター副センター長板下和仁先生の指示の下で豚を手術台に載せた後仰臥位にして固定し、同センターの助手により気管内挿管による全身麻酔が行われた。先ず第 1 班の 3 名が手術を担当した。3 名を役割分担し、3 名のうち 1 名が執刀医、他 2 名は夫々第 2 助手、第 3 助手を務め、杉谷先生が第 1 助手を務めた。術者は杉谷先生から適切な指導を受けながら手術を進め、手術手順の節目で術者は交代した。即ち、最初の術者は皮切から胸腔内ドレナージまで、次



の術者は両腎摘出から切開創閉鎖まで、最後の術者は摘出腎の冷却・灌流と両腎の分離とした。手術は無影

灯に取り付けられたビデオ撮影装置を介してモニターに映し出され、受講者を含め他の参加者全員がモニターを見ながら脳死下腎摘出術手技を共有出来た。3 班目の手術が終了し、その後豚の処理、手術室の清掃、手術器具の洗浄等の後始末を終えた後、講義室で杉谷先生の講評があった。最後に参加者で記念写真を撮り 17 時過ぎに散会となった。

心臓死にしろ脳死下しろドナー腎摘出術には術者に肉体的及び精神的にかなりの負担がかかる。脳死ドナーが増加している現況を鑑みて、術者の負担を軽減するために山口県下においてもより多くのドナー腎摘出術の出来る医師が育つ必要がある。そう云った意味で経験豊かな杉谷先生の指導の下に今回の豚を用いた「脳死下腎摘出術手技講習会」は県下の移植医療推進の嚆矢となったものと思われる。受講者はこの貴重な体験を機に山口県の移植医療の推進に一層尽瘁されることを期待して已まない。

厚生大臣感謝状をいただきました



新南陽若山ライオンズクラブ

山田 圭子

平成24年10月13日に高知市文化プラザ「かるぽーと」で開催された「第14回臓器移植推進国民大会」で厚生大臣感謝状授与式に新南陽若山ライオンズクラブを代表して3名で高知市に行って参りました。

平成2年にライオンズクラブ国際協会336-D地区のクラブとして認証されて以来、新南陽若山ライオンズクラブは一貫して目の不自由な方の役に立つ活動を続けて来ましたが、これにはチャーターメンバーのアイバンクに対する熱い想いがありました。アイバンク設立への支援をクラブの目標に定めたことが我がクラブを前進させた大きな要因です。



クラブの歴史はアイバンク設立準備資金援助に始まり、アイバンク設立後はその活動の支援にと続き、まさにアイバンクと共に歩んで参りました。その活動が認められた授賞だと理解していますが、他の受賞者の多くが医療関係者で私共は場違いな所に迷い込んだような気がして居心地が良くありませんでしたが、「継続は力なり」の言葉通り、20数名の小さなクラブが、一生懸命に取り組んだご褒美の授賞だと誇りに思い胸を張り帰って来ました。

クラブ発足以来、地域の方々の協力を得て、目の不自由な方のために全員で汗を流して試行錯誤を重ねながら22年間アイバンクチャリティーショーを継続し、全ての収益金は「公益財団法人やまぐち移植医療推進財団（旧やまぐち角膜・腎臓等複合バンク）」のアイバンク支援資金と、「九州盲導犬協会」に盲導犬育成資金として寄付してきました。又、機会あるごとに献眼登録啓蒙活動も続けていますが、献眼登録をして頂いた方が実に千人を超えました。地域の方々にアイバンクの存在や必要性も併せて宣伝させてもらっています。

幸いにして健康に恵まれて支障なく過ごせることへの感謝をどなたかにお返しすることを通して

て、目が不自由でも頑張って明るく過ごしている方々を見ると、逆に私達が勇気をもらい自分達の歩むべき道を教えられます。奉仕活動とはする方もされる方も笑顔になれるものでなくてはならないものだと思います。多くの人が思いやりの笑顔を届けられたらもっと優しい心で生きていける人が増えるかもしれません。

新南陽若山ライオンズは、今年度、経済情勢の悪化等により益々厳しい活動を強いられているアイバンク事業をより多く支援するために、支援自動販売機の設置に尽力することといたしました。この事業は自動販売機をオリジナルデザインで仕上げ多くの地域市民・県民が利用する場所に設置することでコカ・コーラウエスト（株）が企業の社会的責任・利益還元の一環として企画したものです。又、自販機の設置に賛同された方は地域と移植医療の普及啓蒙等に貢献出来、そして利用者はこの自販機でジュースを購入することでボランティアに参加する事となります。コカ・コーラウエスト（株）と設置者・利用者の善意が集まって、売り上げの一部がやまぐち移植医療推進財団に寄付されるものです。

現在、新南陽若山ライオンズクラブでは新設自動販売機が二台と既設販売機の変更が二台契約できました。我々の活動はとても小さなものですが、善意の輪が広がり大きな支援になることを信じています。厚生大臣感謝状を授与されたから言うものではありませんが、新南陽若山ライオンズクラブが続く限りアイバンクへの支援は続ける覚悟です。それに加えて、今後は献眼登録の意義を多くの方々に理解していただき献眼提供者を増やすことを目標にしたいと思います。今必要不可欠なのは献眼提供者の増加だと思います。

最後になりましたが当クラブ授賞のためにご尽力頂きました関係者の皆様方に改めてお礼を言わせていただき、今後ともやまぐち移植医療推進財団のご発展を祈念しています。

注：アイバンクチャリティーショーの収益金から、アイバンク基金として、公益財団法人やまぐち移植医療推進財団に、総額8,374,553円をご寄付いただきました。（アイバンク事務局）



「山口県 移植医療に関するワーキンググループ」活動報告

移植医療の普及・啓発を推進するため、平成23年度に設置した「山口県 移植医療に関するワーキンググループ」では、県内各医療機関で臓器提供・臓器移植に携わる方々との意見交換を行っています。

平成24年度は6月と12月に会議を行いました。また、それと同日に「山口県院内コーディネーター会議」を開催したので概要をお知らせします。

第3回会議(6月21日開催)

1、院内コーディネーター証明書交付式

各病院で活動される院内コーディネーターへ山口県知事より証明書を交付しました。同時に院内コーディネーター専用のピンバッジを配布しています。



2、提供施設の活動報告

山口労災病院で体制整備のために行った職員対象アンケート調査の結果を受けて、まず、職員が正しい知識を持つための研修が必要との報告がありました。

3、法的脳死判定・法的脳死判定時の脳波測定について学ぶ

山口大学医学部附属病院脳神経外科 藤井正美医師と丸田雄一技師にご講演頂き、脳死下臓器提

供の際に行う法的脳死判定と脳波測定について学び、活発な質疑応答が行われました。

第4回会議(12月6日開催)

1、小児からの臓器提供と

その体制整備について学ぶ

平成22年の臓器移植法改正に伴い、18歳未満の児童からの臓器提供を行う際は被虐待児でないことの確認をする必要があります。提供施設にはその為の院内体制整備が求められています。そこで、小児救急の方面で豊富なご経験をお持ちで臓器提供のための施設マニュアルの執筆も担当されている、静岡県聖隷三方原病院より岡田真人医師にお越しいただきご講演頂きました。



また、山口県内の児童相談所や警察との連携について報告しました。

2、心停止後臓器提供症例報告と看護師の役割について報告

実際の臓器提供に関わられた院内Coより報告いただきました。出席者より、実際の症例を関係者で共有することは良い学びとなったと感想をいただきました。

3、臓器提供の一般的説明～意思決定へのサポート～を体験する

患者様やご家族から臓器提供について質問を受けた時の対応の仕方についてグループでロールプレイを行いました。

移植医療の出前講座を行っています！

職場・地域での会合、学生さんへの講演等どんな機会でも、僅かな時間であっても無償で出前講座をお引き受けします。移植医療に関する正しい知識と情報をお伝えし、「いのち」について考えていただくことを通じて、移植医療について知っていただけます。ご希望・ご質問等はいつでもご連絡ください。

◆講座後にいただいた感想より◆

- 命や人権について深く考えました。自分も親と話してみようと思います。
- 臓器移植について知っているようで知らないことが沢山ありました。1つしかない命を大切にし、これからどのように生きていくか、しっかり考えたいと思いました。

連絡先：(公財)やまぐち移植医療推進財団 ☎ 083-932-0743 移植コーディネーター 宛て

「コーディネーター」コーナー

院内コーディネーター

各病院で移植医療について知っていただくための活動をしています。また、臓器提供をされる可能性のある患者さんの状況把握とそのご家族や院内各部署との調整をはかる役割を担っています。

院内コーディネーター設置病院

(平成25年1月現在)

山口大学医学部附属病院	6名	宇部市南小串 1-1-1	0836-22-2211
山口県立総合医療センター	2名	防府市大崎 77	0835-22-4411
関門医療センター	1名	下関市貼付外浦町 1-1	083-241-1199
下関厚生病院	2名	下関市上新地 3-3-8	083-231-5811
宇部興産中央病院	3名	宇部市大字西岐波 750	0836-51-9221
徳山中央病院	7名	周南市孝田町 1-1	0834-28-4411
済生会下関中央病院	8名	下関市安岡町 8-5-1	083-262-2300
下関市立中央病院	3名	下関市向洋町 1-13-1	083-231-4111
山口赤十字病院	2名	山口市八幡馬場 53-1	083-923-0111
周東総合病院	4名	柳井市古開作 1000 番	0820-22-3456
済生会山口総合病院	4名	山口市緑町 2-11	083-901-6111
美祢市立病院	2名	美祢市大嶺町東分 1313-1	0837-52-1700
山口労災病院	5名	山陽小野田市大字小野田 1315-4	0836-83-2881
都志見病院	2名	萩市大字江向 413-1	0838-22-2811
岩国医療センター	4名	岩国市黒磯町 2-5-1	0827-31-7121
林病院	2名	山口市小郡下郷 751-4	083-972-0411
阿知須共立病院	2名	山口市阿知須 4171-1	0836-65-2200
萩市立病院	1名	萩市大字椿 3460-3	0838-25-1200

寄付金(賛助会費を含む)に対する免税措置について

これまで、個人が、公益社団法人・公益財団法人へ寄付金(賛助会費を含む)を支出した場合、所得控除制度が適用されていましたが、昨年の税制改正で「所得税法の一部を改正する法律」の施行により、市税特別措置法(昭和32年法律第26号)が改正され、税額控除制度の適用を受けることが出来るようになりました。

なお、下記の税額控除制度(A)を適用するか所得控除制度(B)を適用するかは、確定申告時にどちらか有利な方を選択して申告することになります。

〔新しく導入された控除方式〕

A〔寄付金控除(税額控除)額の計算〕

次の算式により算出された額が「寄付金額」として所得税から控除されます。

(寄付金合計額(※1) - 2,000円) × 40% = 控除額(※2)

※1 寄付金額が総所得金額の40%を超える場合は、40%に相当する額が「寄付金控除額」となります。

※2 控除額は100円未満の端数は切り捨てとなり、また、所得税の25%が限度となります。

B〔寄付金控除(所得控除)額の計算〕

次の数式により算出された額が「寄付金額」として所得税から控除されます。

寄付金合計額 - 2,000円 ただし、年間所得の40%に相当する額が限度となります。

● 賛助会員ご加入、寄附のお願い ●

バンクは、病気で苦しんでおられる患者さんのために角膜や腎臓などを提供して下さる方々とを結ぶ架け橋となるため、移植等に関する知識の普及と臓器提供者の確保に努めるため活動をしております。

この活動を充実させるための費用は、皆様から寄せられたご厚志により支えられております。

本事業に積極的にご理解とご賛同をいただき、皆様の暖かいご支援をお待ちしております。

「香典のお返し」もいただいております。
お礼状のハガキなどもご用意できますので、お気軽にご相談ください。

賛助会費 団体・法人会員 年会費 1口 10,000円
個人 年会費 1口 2,000円

寄付金 金額は問いません

賛助会費・寄付金の振り込みは

口座名: (公財)やまぐち移植医療推進財団

山口銀行: 県庁内支店 普通 6033617

郵便局: 01300-2-78463

お問い合わせ

(公財)やまぐち移植医療推進財団

電話: 083-932-0743

FAX: 083-933-2939

メール: bank2@crocus.ocn.ne.jp

献 腎 ・ 献 眼

尊いご意思をありがとうございました。平成23年12月から平成24年11月までの間に、献腎・献眼をされた方々です。

心から感謝申し上げますとともに謹んでお悔やみ申し上げ、ご冥福をお祈りいたします。

ご遺族様に厚生大臣及び（公財）日本アイバンク協会理事長、（公財）やまぐち移植医療推進財団理事長から感謝状をお届けしました。

馬場 庸子 様	金子 史生 様	名和田和子 様
小川 正一 様	平井フジコ 様	伊藤サチ子 様
國澤 義昭 様	藤川 大吾 様	村岡 満 様
原田 雄一 様		

他に2名の方を含め、12名の方からご提供をいただきました。

（ご遺族のご了解をいただいた方のみ氏名を掲載しています。）



☆☆☆知っちよる?? 聞いちよる!! ☆☆☆

事務局によくあるお問い合わせの回答を掲載しています。

- 1 眼球（角膜）の提供について
 - ☆何歳まで献眼（提供）できますか？
 - 年齢制限はありません。90歳以上の方の献眼も普通にあります。他県では、100歳以上の方も献眼しておられます。
 - ☆白内障の手術をしました。献眼できますか？
 - できます。近視、乱視、老眼、色盲のような目の異常、または白内障や緑内障などの目の病気などがあっても献眼は可能です。
- 2 腎臓移植を受けるためにレシピエント登録をしています。登録は1回だけでいいですか。
 - 献腎臓移植登録をされたら、よく年度以降は毎年1月頃、登録を継続されるか否かの登録更新のお知らせが（社）日本臓器移植ネットワークから届きます。
 - お知らせを読まれて更新する・しないは、ご自身でお決めください。
- 3 献体と献眼、献腎の登録は同時にできますか？
 - 献体をする場合、眼球1眼と全ての臓器が残っていることが必要です。臓器の提供も希望される場合は、献体か臓器提供かを選択していただくことになります。連絡くたさればご説明いたします。

～こころ温まるご支援ありがとうございます～

平成23年12月から平成24年11月末までの間、大勢の皆様から3,745,777円のご支援をいただきました。ありがとうございます。心よりお礼申し上げます。

氏 名	金 額	氏 名	金 額	氏 名	金 額
メスキュード基金	1,000,000	佐藤 和子	10,000	水津 昭	4,000
新南陽若山ライオンズクラブ	305,749	浅山眼科	10,000	合志 栄一・愛子	4,000
周南ライオンズクラブ	300,000	(有)美東林産 代表取締役 原田泰司	10,000	岡正朗	3,445
医)三生会 みちがみ病院 道上永江	100,000	村上 康子	10,000	小原齒科医院	3,107
山口大学医学部泌尿器科	100,000	西岡 咲乃	10,000	匿名	3,000
徳山ライオンズクラブ	100,000	クラフキフミコ	10,000	(有)山口エアテック代表取締役 河野隆文	3,000
田中としろう眼科	80,000	山口赤十字病院	9,963	吉田 一枝	3,000
済生会下関総合病院	64,500	仁保病院	9,693	河村 三重子	3,000
酒田 三男	50,000	須呂齒科医院	8,831	石本 貞美	3,000
近藤眼科	50,000	木村齒科医院 木村 博明	8,366	清水 利明	3,000
(株)モリカワ	50,000	重本 秀明	8,000	坂本 保子	3,000
社会保険徳山中央病院	50,000	西林 ヤスエ	7,000	坂本 久美子	3,000
済生会下関市立豊浦病院	50,000	浴本 武士	6,000	藤井 利子	3,000
キッセイ薬品工業(株)	50,000	浴本 恒子	6,000	じょうのクリニック 城野 憲史	3,000
アステラス製薬(株)	40,000	医)清志会 藤政病院 歯科	5,533	河村 眞由美	3,000
匿名	36,500	社労士法人 藤川労務管理事務所	5,176	石原 博司	3,000
匿名	35,535	菊田 常雄・ヨシコ	5,000	長岡 麻里子	3,000
小幡眼科医院 理事長 守田明子	32,500	藤林 捷二	5,000	原 祐二	3,000
金子 政志	32,000	岡本 幸江	5,000	藤田 信夫	3,000
桂商事(株) 代表取締役 葛山慎一	30,000	ウエダ眼科	5,000	椿 包光	3,000
医)永谷眼科	20,000	つばさ薬局 島田 喜好	5,000	五熊 猛	3,000
医)大西眼科 大西 徹	20,000	阿部 和子	5,000	竹田 昌子	3,000
麻里布中学校教職員会	20,000	中野 公史	5,000	花元 直子	3,000
國澤 康乃	20,000	窪川 百合枝	5,000	名和田 敏子	3,000
山口大学朋和会	12,806	岩本 哲男・哲之介	5,000	高橋 政孝	3,000
國司眼科医院	12,113	小松 靖之介・美保	5,000	田辺義幸	3,000
斉藤外科眼科	11,241	藤川 実	5,000	徳山中央病院 理事長 林田 重昭	2,174
代々木薬局	10,518	よなみや薬局	5,000	田村 泰一	2,000
岩田 佳子	10,000	田中 幹雄	5,000	奥 節雄	2,000
奥 稔子	10,000	(有)あさ薬局	5,000	荒木 茂樹	2,000
松田内科クリニック 松田 彰史	10,000	池本 ひとみ	5,000	入江 伸枝	2,000
柴田 弘	10,000	瀬尾 ヒサ子	5,000	三戸 祥一・菁子	2,000
村田 実雄・満志江	10,000	中嶋 孝子	5,000	田島 勝	2,000
匿名	10,000	藤永 公然	5,000	田島 理恵子	2,000
(株)タイヘイ	10,000	松岡 寿一郎	5,000	山本 美津子	2,000
ひらお耳鼻咽喉科医院	10,000	山崎 敏男	5,000	杉田 幸子	2,000
石野 清	10,000	末富 信弘	5,000	林 喜子	2,000
医)清仁会 林病院	10,000	大曲 恵美子	5,000	弘中 祐児	2,000
河村 敦男	10,000	佐伯 憲彦	5,000	川原 いづみ	2,000
医療法人社団 村重医院 村重 武次	10,000	渡辺 春枝	5,000	中澄 伊都子	2,000
匿名	10,000	株式会社 タケシタ	5,000	福永 幾代	2,000
梅原耳鼻咽喉科	10,000	厚東 眞澄	5,000	伊藤 清市・広子	2,000
平尾泌尿器科 平尾 博	10,000	佐藤 光江	5,000	内田 真理子	2,000
なかの眼科クリニック 中野 朋子	10,000	榎 美穂	5,000	池田 芳江	2,000
医)鈴木眼科	10,000	下関中央ライオンズクラブ	5,000	原 正昭	2,000
判野 昌恒	10,000	大塚 守義	5,000	吉田 韋子	2,000
橋本 好久	10,000	岡山 孝子	5,000	沖本 寿美子	2,000
医)周南眼科 理事長 梶原 良	10,000	フレンズ元島	5,000	平田 淳	2,000
はらクリニック 原 紀正	10,000	中西 多美子	5,000	林 貞男	2,000
嶋元医院	10,000	新田 敏子	5,000	松浦 澄江	2,000
ときわクリニック 若松 隆史	10,000	山口ライオンズクラブ	5,000	松浦 節子	2,000
中野 博之	10,000	大塚 健二	4,000	花屋 チズ子	2,000
医)正木内科耳鼻咽喉科	10,000	田村 弓子	4,000	山本 基雄	2,000
医)健幸会 兼田医院	10,000	猶原 雄甫・友子	4,000	山本 昌子	2,000
くまがい眼科 熊谷 直樹	10,000	溝部 静政・孝子	4,000	山縣 京子	2,000
医)田中医院 理事長 田中稔彦	10,000	匿名	4,000	岩谷 修作	2,000
トモヤオート株式会社	10,000	原田 裕子	4,000	正木 房江	2,000

氏 名	金 額	氏 名	金 額	氏 名	金 額
中島 良博	2,000	匿名	2,000	板村 美智子	2,000
深町 尚美	2,000	匿名	2,000	萩原 柳子	2,000
佐古田 毅	2,000	村上 キミエ	2,000	福井 啓二	2,000
佃 洵	2,000	(有) 原田工業 原田 文夫	2,000	福井 光子	2,000
奥田 斉	2,000	西村 良恵	2,000	水広 正行	2,000
吉田 功	2,000	河谷 九一	2,000	山本 勸	2,000
和田 聡	2,000	匿名	2,000	杉本 多恵子	2,000
藤永 保志	2,000	山本 東正	2,000	磯中 かおる	2,000
匿名	2,000	城井 清親	2,000	萩看護学校	1,621
匿名	2,000	新苗 真砂子	2,000	匿名	1,580
中山 浩二	2,000	松浦正人後援会事務所 松浦 正人	2,000	豊田 みほこ	1,000
部坂 了子	2,000	泉 信太郎	2,000	広川 精二	1,000
匿名	2,000	野村 俊子	2,000	藤井 義信	1,000
豊岡 みや子	2,000	坂根 すえの	2,000	翁林 和恵	1,000
匿名	2,000	日下 貴志	2,000	今井 ユカ子	1,000
山本 健次郎	2,000	赤川 悦夫	2,000	三島 典子	1,000
櫻 莞爾	2,000	山本 茂子	2,000	柏原 千恵子	1,000
市川 チヅ子	2,000	廣津 知子	2,000	沖 英子	1,000
福永 千代子	2,000	内山 ヨシ子	2,000	長松 稔	1,000
藤井 一枝	2,000	藤田 素子	2,000	松浦 孝二	1,000
安藤 二郎	2,000	篠原 学	2,000	山本 文代	1,000
柏村 宣男	2,000	川口 博子	2,000	藤永 登志子	1,000
柏村 康恵	2,000	山本 益幹	2,000	時藤 博子	1,000
岩崎 ちさき	2,000	吉崎 久江	2,000	奥田 よし子	1,000
松本 元枝	2,000	村田 三枝子	2,000	林田 ツル江	1,000
浅原 茂	2,000	山本 裕	2,000	浅野 典子	800
市川 江美子	2,000	増村 多美子	2,000	県議会事務局	526
山本 隆	2,000	神崎 洋美	2,000	山県 順子	500
吉井 定信	2,000	隅谷 美佐子	2,000		
三浦 清隆	2,000	河本 悟	2,000		
吉川 正範	2,000	河岡 淑江	2,000		
西本 陽子	2,000	西村 一良	2,000		
村田 良夫	2,000	小林 國伴	2,000		
高橋 郁男	2,000	小林 菊恵	2,000		
賀屋 ヒロ子	2,000	新家 美和	2,000		
河本 文江	2,000	静間 米満	2,000		
池田 龍次	2,000	山縣 喜一	2,000		
安田 康子	2,000	冨田 恒彦	2,000		
麻野 他郎	2,000	柴田 幸子	2,000		
松重 泰夫	2,000	末永 典博	2,000		
河村 昌枝	2,000	匿名	2,000		
藤井 充代	2,000	山根 勇	2,000		
林 佳子	2,000	山口 常男	2,000		
藤本 則夫	2,000	村川 修	2,000		
田村 啓子	2,000	堀永 敦臣	2,000		
福新 勝子	2,000	柳上 京子	2,000		
木下 敬太郎	2,000	谷口 秀夫	2,000		
井藤 洋子	2,000	三吉 矩子	2,000		
藤川 チトセ	2,000	津村 はる美	2,000		
松本 正幸	2,000	木下 艶子	2,000		
甲藤 祐子	2,000	秦 時晴	2,000		
松原 守	2,000	浜野 小優美	2,000		
村岡 満	2,000	村本 英夫	2,000		
棟近 啓治	2,000	原田 知枝	2,000		
匿名	2,000	匿名	2,000		
竹部 陽一	2,000	藤田 昌三	2,000		
角 通夫	2,000	青木 省三	2,000		
角 喜代子	2,000	藤井 律子	2,000		
大田 美紀子	2,000	築山 昌史	2,000		
柳本 滋	2,000	坂井 恵子	2,000		
村田 康枝	2,000	伊藤 和子	2,000		
村田 昭輔	2,000	東 正治	2,000		
田中 久男	2,000	吉崎 修三	2,000		
笠井 清治	2,000	村田 真澄	2,000		
山下 智江	2,000	國本 律子	2,000	合 計	3,745,777

伝・言・板

- ご住所、お名前、物故等の変更がありましたらお知らせください。
- 臓器提供意思表示カードや運転免許証及び健康保険証の裏面に臓器提供の意思表示欄があります。臓器や角膜を「提供する」「提供しない」ご自身の意思をご記入ください。
- 講師派遣制度
「臓器及び角膜の提供や移植について」など、移植医療の普及啓発や提供が発生した場合を想定した講演会や研修会に講師を派遣します。派遣に伴う費用は不要です。ご活用下さい。
- 学習用や普及啓発用のパンフレットやグッズを用意しています。必要な方はご連絡下さい。送料は当方で負担します。
- イベント・移植に関する情報はホームページに掲載しています。
ホームページアドレスは次のとおりです。<http://www.y-ishoku.org>

献眼の連絡 お亡くなりになられた時、ご相談、事前連絡など

0120-12-1110 (平日8:30~17:15)

0120-12-1116 (平日夜間・土・日・祝日・休日)

臓器提供の連絡 ご相談、事前連絡など

0120-12-1110 (平日8:30~17:15)

090-8718-2894 (終日)

0120-78-1069 (終日)



●設置にご協力を!!●

支援型自動販売機・募金箱を設置していただける医療施設及び事業所を求めています。

移植医療の普及・推進を支援するため、コカ・コーラウェスト(株)の社会貢献事業に賛同された自動販売機設置者から売上金の一部を(公財)やまぐち移植医療推進財団にご寄付いただきます。ご寄付いただいた金額は、募金箱を含め、普及啓発のためのパンフレット等の作成やイベントの費用に充てることとしています。

支援型自動販売機設置事業所

萩市 (有)市民サービスセンター
(株)金子塗装店
協和興産(株)
服部産業(株)
(有)西岡設備
山口市 (医)仁保病院(2台)
周南市 トモヤオート新南陽店
(株)玉野石油店
総合電機(有)
(有)寿司やす



山口市
仁保病院様



山陽小野田市
田中としろう
眼科様

※問合せ窓口:(公財)やまぐち移植医療推進財団事務局

(公財)やまぐち移植医療推進財団の連絡先

〒753-8790 山口市滝町1-1 県庁6階 地域医療推進室内

電話 **083-932-0743** FAX **083-933-2939**

e-mail bank2@crocus.ocn.ne.jp ホームページ <http://www.y-ishoku.org>